

台風第 19 号に伴う排水樋管（堤防を横断する水路）等に関する説明会 < 第 2 部 >

〔開催日〕 令和元年 11 月 9 日（土）

〔時 間〕 午後 2 時 30 分～4 時 58 分

〔会 場〕 第六小学校体育館

〔参加者〕 255 名

○説明者

- ・ 市長（松原俊雄）
- ・ 副市長（平林浩一）
- ・ 企画財政部長（高橋良典）
- ・ 総務部長（石橋啓一）
 - ・ 危機管理担当理事（立道雅央）
- ・ 福祉保健部長（浅見秀雄）
- ・ 環境部長（清水明）
 - ・ 下水道課長（一瀬隆文）
 - ・ 下水道管理担当主幹（岩崎俊勝）
- ・ 都市建設部長（小俣和俊）

○説明会次第

- ・ 開会
- ・ 市長挨拶
- ・ 説明者紹介
- ・ 市からの説明
 - 1 台風第 19 号の概要等について（総務部長）
 - 2 排水樋管の概要と操作状況について（環境部長）
 - 3 今後の対策について（環境部長）
- ※質疑
 - ・ 事前質疑応答（安心安全課長補佐・各担当部長）
 - ・ 一般質疑（来場者・各担当者）
- 4 被災に伴う各種減免制度等について（企画財政部長）
- ・ 閉会

事前質疑（概要）

司会

猪方樋管では午後5時頃から冠水が始まっていたが、なぜポンプによる排水作業が行なわれなかったのか。

下水道課長

排水作業は、基本的には樋管を閉めた状態で排水作業を行わないと効果が現れないと考えている。当時の状況は、市内に降雨があり、猪方排水樋管から多摩川への水の流れが確認できたため、樋管を閉めポンプ排水をしたとしても、かえって浸水範囲を広げることが想定できたため、排水作業は行わなかった。

司会

午後7時頃には排水溝から噴出した水が濁っており、多摩川から逆流していたと思われる。職員退避の時点で開門のままにしたのは、誤認操作ではないか。

下水道課長

19時30分の退避時の状況は、市内で雨が降っていたこと、猪方排水樋管から多摩川に向けて水の流れを確認できたことから、樋管を閉めるとかえって浸水被害を広げることとなると判断し、開けたままにした。今回起きた事象については、今後、原因を究明しその対策について検討を進める。

司会

多摩川の水位を何m下げればよいのか、多摩川の水位が何mになると今回のような浸水被害が発生するのか。また、監視カメラや水位計を設置して、市民に公表することはできないか。

下水道課長

様々な条件を考慮しなければ一概に示せないが、今回の台風第19号の場合、猪方・駒井町地区では17時頃から浸水が始まった。その時の多摩川の水位は石原観測所の水位で5.46mであり、今回の最高の水位が6.33mであることから、あくまでも概算で想定すると約1m程度下げることが必要であると考えられる。

また、浸水被害が発生する多摩川の水位は、今回の台風第19号と同じ条件であった場合は、多摩川の水位が5.46mを越えると浸水被害発生する可能性があると考えられる。

監視カメラや水位計については、設置に向け準備を進めたいと考えている。その情報を公表することに関しても、どの様にすべきか検討したい。

司会

今回のような被害が発生しないように、どのような応急対策を検討しているか。

下水道課長

今回起きた事象については、原因を究明しその対策について検討を進めていくと共に、監視カメラや水位計の設置に向け準備を進めたいと考えている。

司会

10月13日の午前10時40分に市の災害対策本部が閉鎖された。まだ洪水警報が発令されており、浸水被害箇所では復旧作業が行なわれていた。何をもって災害対策本部が閉鎖されたのか。

危機管理担当理事

災害対策本部は、13日の第7回会議において、避難者の状況、早急に対応が必要な道路上の泥土除去における自衛隊の協力調整、被害状況調査や被災ごみの対応など、その後の方針を確認したうえで、本部は閉鎖した。13日は、その後自衛隊と連携した道路上の泥土除去などの対応に当たっていた。

司会

床上・床下浸水に対して消毒を実施してもらえないか。

福祉保健部長

浸水被害を受けた床上については、清掃と乾燥後に消毒を案内している。消毒薬は市販の塩素系漂白剤、消毒用アルコールや逆性せっけんなど。

床下については、土砂等を取り除き水洗い後の乾燥をお願いしているが、消毒は原則不要とされている。

全国的にはここ数年大規模な災害が発生しているが、感染症の発症情報を把握している厚生労働省の感染症対策に基づく案内である。

一般質疑（概要）

参加者

- ・先日罹災証明書が届き、床上だが一番程度が低いものだった
- ・納得できず説明を求めているが、今後同様の方に向けた説明会が開催できるか

都市建設部長

- ・まちづくり推進課職員の訪問によって確認している
- ・不明な点は説明するようにするのでお問合せください

参加者

- ・床上、床下浸水の件数が出ているが誰がどう調べたのか

都市建設部長

- ・職員が回り、範囲を確定した
- ・罹災証明書の申請件数を含めて計算しており、ひと建物＝1棟（マンション含む）ごとに計算している

参加者

- ・床下は罹災証明を出せるのか

都市建設部長

- ・職員が訪問し、被災状況を確認して発行している

参加者

- ・浸水で庭に大きな穴が開いてしまっている
- ・市に電話したらこれは対象外と言われたが、現場を見て判断してほしい
- ・石原の水位は調布のどこにあるのか
- ・狛江の水位（排水管）が何mになったら閉めるとかで判断していないのか

都市建設部長

- ・訪問して判断する

下水道課長

- ・（石原水位観測所は）鶴川街道から少し下流のところ
- ・石原の水位は参考にしている。樋管の水位は常に職員が確認した

参加者

- ・樋管には何m余裕があったのか
- ・5.5mで退避したが、職員は危険ではなかったから退避は不要ではなかったのか
- ・六小の電気がついたのは何時か
- ・水害が予想される地域なのに先に二中が開設され、しばらくしてから六小。その頃には冠水が始まったが情報は出ていなかった
- ・何時にどれぐらい水位が上がっていったか把握しているのか

環境部長

- ・市民の財産と同様に職員の命も守る
- ・ppt. 23 ※2説明

下水道課長

- ・冠水量は原因究明とともに検討している
- ・地域の高低差を含めて考慮する

参加者

- ・猪方樋門で多摩川の流れが確認できたとのこと
- ・調布のほうは樋管が広いので大丈夫だったが、猪方・六郷は小さいので開けたままでは逆流すると思うが
- ・堤防下 1mまで来たら逆流するはずなので信じ難い

下水道課長

- ・19：30までは流れを目視で判断した
- ・市内降雨もあったので開けたままとした

参加者

- ・16：00、17：00頃に猪方が冠水していたのを知っていたのか

- ・23：30 に避難所に来た人に「大丈夫」と伝えていたが把握していたのか

市長

- ・市は把握していた
- ・避難解除は確認したうえでの判断

参加者

- ・23：30 解除時は水が 70cm ぐらいあった
- ・13 日（12 日？）になってからでないと災害対策本部を設置しなかったのは把握していなかったからではないか

市長

- ・金曜から体制は用意し、臨時庁議を 2 回開催した
- ・大型の台風であったので、対応は早めに行っており、災害対策本部を設置した

参加者

- ・冠水が起こったのを市長が把握されたのは何時か

市長

- ・16：30 の本部への報告による

参加者

- ・冠水・逆流を把握しながら水門を閉じていなかった

下水道課長

- ・多摩川水位上昇のため雨が流れなくなり、排水不良を起こしたため溢れた
- ・市内に降雨があること、樋管から多摩川への流れを確認できたので閉めなかった

参加者

- ・水門を閉じていても、閉じていなくても被害が変わらないと読めるが、閉じていたら被害はもっと少なかったと考えられる
- ・消毒は自分でというが、下痢を訴えている方も出ている
- ・地下の乾燥もまだしているところ
- ・市は住民に対してどのような補償をしてくれるか
- ・今後、同じ様なことはないかと断言してほしい

下水道課長

- ・早急に対応できるのはカメラや水位計による監視

市長

- ・専門家にも入っていただき、どういうことがあれば台風 19 号と同様でも対応していけるか検討する
- ・ポンプアップも同量では対応できない

参加者

- ・職員が退避した後の水位の観測や操作は樋門でしかできないのか
- ・流れはずっと透明だったが、途中で泥水に（多摩川からの流入）
- ・防災無線は聴こえず、HP はパンク。情報は取れないし、市も集められなかったと思う。情報を吸い上げる仕組み（SNS 等）を考えては

- ・インフラにお金をかけずに情報を集める工夫を検討してほしい

参加者

①ppt18. 23 : 00 排水開始 ppt20. 0 : 30 排水開始

ここが1時間違うのはなぜか

②市として浸水対策の検討に入っていると思っていたが、回答にがっかりした

- ・現段階での対策のスケジュールはあるのか
- ・来年度中に何らかの対策をしてほしい

下水道課長

①当日は市内の雨が小康状態になってから排水を行った

六郷は常設ポンプがあったが、猪方はポンプ車の手配と交通整理があったためタイムラグが生じた

②現在、専門コンサルに相談中

ハード面のスケジュールは原因究明してから、今後の対策と同時に進め、現実的なスケジュールを立てる

参加者

- ・市長は国・都と交渉と言うが、住民としてはまた被害に遭う可能性があるので悠長な形ではなく行動に

市長

- ・市でできることはしっかりやっていく
- ・市ができないことを国・都にお願いしていく
- ・究明中に出てくる対策にはしっかり対応していく

参加者

- ・災害対策本部は何日の何時に立てられたのか →10/12 13 : 00 と回答
- ・住民へのアフターケアは世田谷、調布と比べて同等程度なので、もっと住民に寄り添った対応をしてほしい。それがないと狛江に住んでよかったとならない
- ・今後は地震なども色々あるので、避難所などのマニュアル、計画をもっとしっかりしてほしい

参加者

- ・ppt29. 樋管の水量などの情報の開示はいつか
- ・ppt19. 開門のまま退避の判断は誰がしたのか、判断基準は

下水道課長

- ・究明の中で精査し、分かりしだい公表する
- ・19 : 30 職員から電話で状況報告を受ける
- ・下水道課長がそのまま退避と伝え、その内容を災害対策本部へ報告した

参加者

- ・避難所の開設はなぜ中央公民館が最初だったのか
- ・川の近くはあとのほうで、避難所が開いたときに家を出ようとしたときにはもう玄関から水が入ってきてしまう状況だった
- ・福祉避難所の開設が最後なのはなぜか

危機管理担当理事

- ・中央公民館は不安な方向への自主的な避難所
- ・野川、多摩川の水位を考慮して開設した
- ・次に台風が来たときにはもっと早くから開きたい
- ・一般の避難所に避難していただいたのち、配慮が必要な方は職員が移動していた
- ・今回の件で再考する

参加者

- ・今回は大丈夫だったが、水没の可能性がある小学校を避難所にするのはふさわしくない
- ・ハザードマップ上は水没するのに、初めから一中を開放せずに二中からなのはなぜか
- ・ハザードマップどおり行動すべきなのに、避難勧告やハザードマップの信頼を下げている
- ・一中だけではキャパが足りないのは認める
- ・広域避難も視野に入っているのか
- ・究明のデッドラインはいつか

危機管理担当理事

- ・現実的に、多摩川周辺の方に避難していただくと一中では入りきらない
- ・二中体育館は浸水の可能性があるが、校舎の2～4階へ移りやすく、命を守る垂直避難ができる場所として開設した
- ・今後ハザードマップに、学校等と調整して周知していく
- ・被災するのが狛江市だけなら調布や世田谷に避難できるように、都 23 区 26 市とは協定している

市長

- ・樋管2つの究明をしている
- ・調布との連携をしていかなければならない
- ・今年度予算化し、年度中に上げられればと考えている

参加者

- ①西の交差点に汚泥が流れたが、下水管に汚泥が残っているのでは、今後溢れやすくなるのでは
 - ②時間がかかるのは分かるが、短・中期的な方法を示したほうがよい
- ・いつごろやるのかをどこで知ればいいのか不明なので開示方法を示しては

下水道課長

- ①雨水管で猪駒通り下に約2mの四角い管が入っている
- ・調査し、現状は雨水が流れているので、堆積によって溢れることはない
- ②まずできること（カメラ・水位計）を進めている

参加者

- ・この辺は4～6m水没の可能性はある
- ・新聞では川底を掘る、いらぬ木を伐採すべきと書いてある
- ・水辺の楽校付近が浸水の原因となるが伐採は考えていないのか

市長

- ・河川管理者の国が上流から下流までチェック済
- ・木は上流に多くあり、そこから流されてきて、それがダムで止まり色々なものが滞積して越水する
- ・土砂も大量に流れてきている
- ・宿河原堰が流されている
- ・これらを国に対応してもらえよう、しっかり言っていく

参加者

- ・雨水の氾濫について資料があるが、トイレの水が溢れてしまった
- ・汚水、雨水は分流しているが汚水のほうも溢れたのでは
- ・汚水が排水不良になった場合、衛生面のほうでも問題があると思うが、市としては汚水の流量や排水不良は把握しているか

下水道課長

- ・汚水が流れにくくなるのは把握している。今回の浸水とは別の話であり、別途対応している

参加者

- ・猪方水門はかなり下の方にあるが、当日はどのように確認したのか
- ・風呂の追い炊き機能では温かいお湯の流入は目視できない。それならば逆流していないとも言いきれないのでは
- ・六小で19:00に上階に移動したのはなぜか
- ・二中に避難したが、生徒用の非常食しかなかった。手ぶらで来た人用の水・食糧はあるか
- ・月イチでいいので進捗を報告することは可能か（HP、SNS等）

下水道課長

- ・追い炊きの流れを意識して目視したことはない。
- ・樋管の上と土手の上から流れを目視した
- ・（六小）体育館がいっぱいになった、冠水の恐れがあったと考えられる

危機管理担当理事

- ・二中には防災用の備蓄倉庫がある。今回は間に合わず生徒用のお借りした

企画財政部長

- ・毎月とはいえないが、進捗があった都度報告していく
- ・2ヶ月に1回くらいの頻度で

参加者

- ・塩素系消毒を自主的にというが、若い者は調べられるが高齢者等に向けてもHPやチラシで周知すべき

参加者

- ・下水の逆流は内水氾濫の断定は簡単ではない
- ・住民サイドもこの問題を市と共有していく
- ・対策の講演などは開けるのか

市長

- ・市は要請があればバックアップしていく

参加者

- ①市内高低差は5mくらいしかないが、猪方から一中へ避難できるのか
 - ・この地区で水が出た場合は時間が取れると思うが対策が取られてこなかった
- ②23:30頃、石原で最高水位の頃に小雨のため避難所から帰っていく人が多かった
 - ・情報が来なかったので引き止められなかった
 - ・しっかり伝わるように無線などを用いてほしい

市長

- ①垂直避難が有効と考えた
 - ・ハザードマップ多摩川氾濫版に、家屋倒壊に含まれていないところは水圧にも耐えられると判断した
 - ・校舎側がなかなか使えなかったので、避難所マニュアルや計画を変更していく
 - ・また、避難しなくてよい構造物（マンション等）も示していく
 - ・そこに居たほうが安全で、長期になる場合はそこに物資を持ち込む
 - ・広域避難は、自分のところが避難しきれないのに他は受け入れられないという状況
 - ・川の氾濫の場合、垂直避難やマンションへの避難は有効

参加者

- ・狛江に住み、災害が続き後悔している
- ・市の2/3が水害を受けるとハザードマップにある
- ・多摩川の治水が遅れている
- ・また同様の台風が来るかもなので早く対応し、堤防が絶対に決壊しないとしてほしい

市長

- ・京浜河川事務所にも確認し、早急に対応が必要な部分があると指摘を受けている
- ・その他点検し、ダムが開いているところも確認できた
- ・堤防の高さが足りていないと想定できる箇所もある
- ・昨年、西日本豪雨で予算が流れてしまい今年着手できなかった
- ・逐次報告は難しいが、なるべく市長の言葉を公表していく